

歯の漂白に関するインフォメーションをお読みいただき、内容を十分に理解した上で受診するかどうかをお決めください。また内容に関するご質問、あるいはご不明な点がございましたら、担当歯科医にお尋ねください。すべてをご了解のうえで、ご署名をお願いいたします。

【ホームブリーチングの概要】

ホームブリーチングは歯科医の指導を受けながら、受診者自身が歯の色調を明るく改善する漂白法で、自宅に限らず任意の時間と場所で実行できます。薄いカスタムメイドの漂白専用トレーに薬剤を注入し、それを自らの手で歯列に装着します。歯科医の指示に従い、1日に2～8時間薬剤を作用させ、通常は2～4週間にわたり実行します。
*漂白剤：過酸化尿素、あるいは過酸化水素が使用されません。

【インフォームドコンセント】

1. 過酸化尿素、過酸化水素は永年にわたり、口腔用消毒剤として使用されてまいりました。それらがホームブリーチングに応用され始めたのは最近のことです。アメリカ食品衛生局資料によれば、漂白剤としてではありませんが消毒剤としての安全性が保証されております。
2. 過酸化水素による歯の漂白が開始されたのは100年ほど前のことで、歯質自体に対する障害が見られないことから現在でも実施されております。また過去において、歯、歯肉、舌、頬粘膜、咽頭に障害を起こしたという報告はありません。
3. 発現率は全受診者の10%以下とはいえ、漂白法により不快な思いをする場合があります。大部分は一時的なもので心配にはおよびませんが、冷熱に対する知覚過敏、歯肉の灼熱感、粘膜の潰瘍、吐き気、歯の痛み、かみ合わせ具合の変化、顎関節や顔面の痛み、漂白剤を飲み込むことで起こる咽頭の痛み、などの発生が考えられます。いずれの症状が引き起こされた場合でも、治療を中断することにより軽減されます。
4. 通常は、漂白法により歯の色調が明るく変化します。しかし、以前から存在していた充填物や補綴物の色調は変化せず、両者の色調が異なって見えるようになります。あまり目立つような場合は以前の人工修復物を、新たな色調に合わせて再治療する必要が生じます。
*補綴物、充填物：ともに人工修復物で、かぶせもの、つ

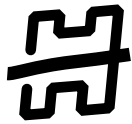
めものといわれる。

【適用不可能となる場合】

1. 漂白剤には過酸化尿素、過酸化水素、グリセリン、フッ素、香料が含有されています。それらの素材にアレルギーを有する方には適応できません。
2. 変色を起こした原因によっては、漂白法で色調の改善が見込めないことがあります。その場合には歯科医と相談の上、他の方法で改善することをお勧めいたします。
3. 妊娠中あるいは授乳中の女性、妊娠する可能性の高い女性には適用されません。妊産婦に対する漂白剤の影響についての研究は皆無で、その安全性は確立されておりません。
4. すでに知覚過敏の傾向にある場合、漂白法によりさらに症状が悪化するおそれがあります。
5. 漂白法は誰もが受診できる治療です。しかし、色調が複雑な変色、補綴物、充填物、う蝕歯、磨耗した歯が多数存在する場合は、通常の前処置をお勧めいたします。

【受診者としての責任】

1. 予約した時間には必ずご来院ください。1～6週間ごとの定期的なチェックが必要で、歯、歯肉をはじめとする口腔内に異常な変化が起きていないかを、歯科医が確認いたします。
2. 装着時間は、歯科医の指示を厳守してください。
3. 受診者は漂白期間中の喫煙、あるいは他の発がん作用を有する物質に接することは厳禁です。漂白剤はそれらの発がん性を高めるおそれがあります。
4. 日常のホームケアは、歯の白さを永続させる大事なポイントです。適正な方法によるブラッシングを励行し、喫煙、紅茶、コーヒー、赤ワインなどの常習を控えることも必要です。歯の表面に着色が起こると、漂白の効果が半減したように見えてしまいます。



歯の漂白：ホームブリーチング用 2

【予想される結果】

1. 必ずしも現在の状況が改善されるという保証はありません。また、どの程度の改善が見込まれるかを確実に予測する方法也没有。しかし多数の症例は、シェードガイドを基準として1～2段階明るさを増します。
2. 治療が完了するまでの期間は通常2～6週間ですが、5日間ほどである程度の効果が現れるようになります。漂白が困難な症例の場合は治療期間がさらに長びき、白さもチョーク様となる場合があります。
3. 漂白効果を得やすい色調（黄色、黄褐色の変色）、困難が伴う色調（グレー、青灰色の変色）と、漂白法にも得手、不得手があります。とくにテトラサイクリン（抗生物質）の引用により引き起こされた変色は、それほどの漂白効果が期待できません。
4. 漂白効果の持続は変色の要因により異なります。また、漂白効果を持続させるためには、定期的にオフィスブリーチングあるいはホームブリーチングによる反復治療が必要になります。

*シェードガイド：歯科医院用の色調を測定するための器具。

【ホームブリーチングの補足説明】（カスタムメイドの漂白専用トレーを"トレー"として表記）

1. 受診者自身がトレーに漂白剤を適量注入し、両手で注意深く口腔内に挿入します。注入する薬剤の量が多すぎると装着時に押し出され、その薬剤を飲み込んでいると咽喉に痛みを感じる場合がありますので、必ず吐き出すようにします。
2. 漂白剤を交換するときは両手でトレーをはずし、トレーを水洗・乾燥させた後、新たに漂白剤を注入します。そして口腔内も十分に清掃して、ふたたび装着いたします。トレーの内外側ともに毎日洗浄し、清潔に保つよう心掛けてください。
3. 漂白を1日に何度か反復すると漂白は加速されますが、知覚過敏をはじめとする他の不快事項が発現しやすくなります。
4. トレーの装着方法は、就寝時に実行する場合と、日常生活や仕事の合間に実行する場合があります。いずれを採用するかは漂白剤の種類や濃度、また知覚過敏などの不快症状が出現するか否かにより、歯科医が判断いたします。
5. 毎日就寝前にフッ素剤を歯に塗布することで、知覚過

敏を抑制する方法があります。ただし、対象者により抑制効果がみられない場合があります。

6. 歯、歯肉、顎関節などに不快な症状が出現したり、予期しない問題が生じた場合は、ただちに中止してください。そして必ず担当歯科医に連絡をとり、指示を受けてください。
7. トレーを装着したままでの飲食は厳禁です。
8. 漂白法は歯の表面から薬剤を作用させますが、歯の深部に薬剤が浸透することで歯の神経がダメージを受ける場合があります。治療を開始する前に、隙間のある充填物、未治療のう蝕歯、深い亀裂を有する歯などは、すべてを完全に封鎖しておかなければなりません。
9. 歯肉が後退して歯頸部に凹みがみられると、その部分から薬剤が浸透して歯の神経がダメージを受ける場合があります。磨耗あるいは露出した部分を被覆した後に漂白法を開始するようになります。

*歯頸部：歯の表面のエナメル質と、歯根のセメント質の接合部で、歯肉との境界付近。

私はホームブリーチングに関する記載事項を読み、内容を十分に理解いたしましたので、この漂白法を受診いたします。また治療に関する説明を事前に受け、疑問点は回答を得ることで解消されております。治療に際しましては、歯科医の指示に従い、漂白法が完了しても定期的に治療を反復いたします。

本人または保護者署名

印